

# 小児科病棟におけるミュージアム活動の試み

犬飼岳史(山梨大学医学部小児科)

大学病院の小児科病棟では、長期の専門的な治療を必要とする子ども達が入院生活を送っている。私たちの病棟では、2007年から窓越し観望会を開催し、山梨県立科学館および星の語り部と連携した出張プラネタリウムの会を開催しており、2010年の本研究会で経緯と活動内容を紹介させていただいた。その後、いくつかのミュージアムおよびその関連団体と連携して病棟の子ども達がミュージアム体験できる機会を作ってきたので、観望会の様子と合わせて紹介する。

## 1. はじめに

大学病院の小児科病棟では、専門的な治療のために約3分の1の子ども達が半年以上の長期の入院生活を送っています。ですから、病棟は子ども達にとって生活の場ともなっています。

そんななか、2007年に当時のハワイ天文台の林先生が来院されて、すばる望遠鏡やハワイの星空の様子をお話して下さいました。ちいさな子ども達まで熱心にお話を聴いている様子に、このような活動の意義を感じて、私達の取り組みがはじまりました。

山梨県立科学館の高橋真理子さんと星の語り部のみなさんのサポートで、プラネタリウムの会や、窓越しの観望会、写真展を開催し、活動が次第に広がっていった経緯[1]を2010年の本研究会でご紹介いたしました[2]。今回は、その後の活動について、プラネタリウム、観望会、写真展示、それ以外の活動の順番でご紹介します。

## 2. プラネタリウム

2010年8月18日夕方、外来ホールの一角にエア・ドームが設置されました(写真1)。山梨県内で出張プラネタリウム事業を展開されている高尾徹さんが準備して下さいました。高尾さんは、高橋さんからご紹介いただきました。ドームの中では、本格的なプラネタリウム投影が行われました。入院中の子ども達は、両親や普段は会えない兄弟とも一緒に、家族でプラネタリウムを楽しみました。ホールの外では望遠鏡で月を見てもらう予定でしたが、曇っていたため望遠鏡をホールの一角に置きました。すると、子ども達が次々に覗き込みます。「あっ、見えるよ!」ということ。この写真では(写真2)、看護師長さんも覗いていますが、接眼レンズにコンパクト・デジカメを押し付けて撮影した写真がこちらです(写真3)。ホールの壁に、紙で作った星を貼っておいたのです。本物ではなくても、望遠鏡を覗いてみるという体験に、子ども達は非常に興奮していました[3]。

2010年の小児科病棟クリスマス会も、外来ホールで行いました。この時は、高橋さんと星の語り部のみなさんが、ユニバーサルデザイン絵本の「ねえ おそらのあれなあに?」をスライドで紙芝居のようにして紹介して下さいました[4]。

2011年夏のプラネタリウムの会では、地元の積み木研究所の荻野さんたち[5, 6]が、1万5千個の積み木を用意して下さい、外来ホールの一角に入院中の子ども達が両親や兄弟と一緒に積み木の街を作りました。出来上がったところで、ホールの照明を消すと、高尾さんがホールの天井にプラネタリウムを投影して星空解説してくれました。すると、まるで積み木の街の上に星空が広がっているかのような幻想的な雰囲気になりました[7] (写真4)。

### 3. 観望会

2011年の小児科病棟クリスマス会でも、外来ホールで積み木を楽しみました。会場の外では、高橋さんと星の語り部のみなさんが、望遠鏡を用意して木星の観望会をやって下さいました[8]。この車椅子でお母さんと一緒に望遠鏡を覗いていた男の子(写真5)が、それから数ヶ月後に退院しました。退院のときに頂いたメッセージ・カードには、お母さんが「初めての木星とてもきれいで感動しました。」と書いて下さっていました(写真6)。大きな印象を残していたのだと嬉しく思いました。昨年のクリスマス会でも、同じように木星の観望会を行いました。

昨年5月の金環食では[9]、幸いに私達のところは、晴天の帯の中に入りました。あらかじめ各自が自作したマイ・日食グラスを持って、入院中の子ども達が学生ボランティアのメンバーと一緒に、最上階にある内科病棟のデイ・ルームで観望しました(写真7)。金環食も薄雲越しに見る事ができました。子ども達は、高橋さんを通じていただいた観察ノートに、ちゃんと記録を残していました(写真8)。

### 4. 写真展示

星空の撮影をメインにされている牛山俊男さんですが、2010年にはネパールの子どもの写真を[10]、2011年には小動物がじっとこちらを見つめている写真を[11]展示して下さいました。星のソムリエ資格をお持ちのたけいさきよさんも、ご自身で撮影した星空写真を[12]展示して下さいました。

### 5. 小児科病棟でのミュージアム活動

大阪自然史博物館で動物の骨格標本づくりをしている、なにわホネホネ団の団長である西澤真樹子さんが、2010年7月に院内学級で特別授業をして下さいました[13]。西澤さんが、動物の骨格を描いた大きな絵を院内学級の入り口にいくつも貼って、子ども達が教室に入る瞬間からワクワクする雰囲気を用意して下さいました(写真9)。入院中の子ども達でも、骨格標本なら安心して触ることができます。この写真(写真10)は、アライグマのアゴのホネに子ども達が指を入れているところですが、ホネを見ると動物がどんな生活をしているのか知ることができることを楽しく学びました。

2010年10月には、兵庫県立人と自然の博物館の三橋弘宗さんが、水の中に棲む昆虫や魚などをアクリル樹脂に封入した標本を持って、院内学級で特別授業をして下さいました[14]。三宅さんも、「お部屋で川虫を調べませんか？」という、大きなノボリを教室の入り口に用意して下さいました。この封入標本(写真11)には、川に落ちた森の木々の葉っぱが入っています。葉っぱには川虫がついて、葉っぱを食べている様子が封じ込められています。子ども達は、森が川や海の生き物を支えていることを楽しく学びました。

### 6. おわりに

緩和医療の国際雑誌に、昨年11月にロンドン大学附属博物館から発表された論文[15]を最後に紹介します。この論文は、乳癌で入院中の患者さんを対象に、博物館の学芸員が化石や遺跡から発掘された壺などの展示物またはその印刷物を使って個別に説明したところ、実際に展示物に触れて説明を受けた患者さんの方が充足感が高かった、ということを医学的にデータで示した世界で最初の研究です。

ですから、小児科病棟に入院中の子ども達にとっては、実際に小望遠鏡を覗くという体験は、すばる望遠鏡の見事な写真を見ることに劣らない意義がある！と言えるかも知れません。

## 参考文献

- [1] 犬飼岳史, 杉田節子, 向山晴美, 他. 大学病院小児科病棟におけるミュージアム活動の試み  
アートミーツケア 3:90-97, 2011.
- [2] 天文教育普及研究会ホームページ ユニバーサルデザイン天文教育研究会 集録  
<http://tenkyo.net/wg/ud2010/index.html>
- [3] 山梨大学医学部小児科ホームページ プラネタリウムとつみ木のタペ  
[http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/p\\_t.html](http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/p_t.html)
- [4] 山梨大学医学部小児科ホームページ つみ木クリスマス会 2010  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/xmas2010.html>
- [5] 犬飼岳史, 荻野雅之. 小児科病棟での「つみ木広場」定期開催 チャイルドヘルス 12:68, 2009.
- [6] 荻野雅之, 犬飼岳史, 荻野慶昌, 他. 大学病院小児科病棟におけるつみ木広場の定期開催 ア  
ートミーツケア 3:115-121, 2011.
- [7] 山梨大学医学部小児科ホームページ プラネタリウムとつみ木のタペ 2011  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/pandb2011s.html>
- [8] 山梨大学医学部小児科ホームページ 2011年病棟クリスマス  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/xmas2011.html>
- [9] 山梨大学医学部小児科ホームページ 世紀のリングが見えた!!  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/ring.html>
- [10] 山梨大学医学部小児科ホームページ 牛山俊男さんの写真展(ネパールのこどもたち)  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/nep.html>
- [11] 山梨大学医学部小児科ホームページ 牛山俊男さんの写真展(みつめる目)  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/usuiyama2.html>
- [12] 山梨大学医学部小児科ホームページ たけいさきよさんの写真展  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/takeisakiyo.html>
- [13] 山梨大学医学部小児科ホームページ ホネホネ・ワークショップ  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/bone.html>
- [14] 山梨大学医学部小児科ホームページ 三橋弘宗さんによる特別授業「森から川への贈り物」  
<http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical/pediatr/morikawa.html>
- [15] Thomson LJ, Ander EE, Menon U, et al. Enhancing cancer patient well-being with a nonpharmacological, heritage-focused intervention. J Pain Symptom Manage 44:731-740, 2012.



写真1 外来ホールに設置されたプラネタリウム用の4メートルのエア・ドーム



写真2 外来ホールに置かれた望遠鏡を子ども達と一緒に看護師長さんがのぞいている



写真3 外来ホールに置かれた望遠鏡の先の壁には紙で作った星が貼ってあった



写真4 外来ホールに作り上げられた積み木の街の上にプラネタリウムが投影された



写真5 木星観望会で車椅子から望遠鏡をのぞく男の子

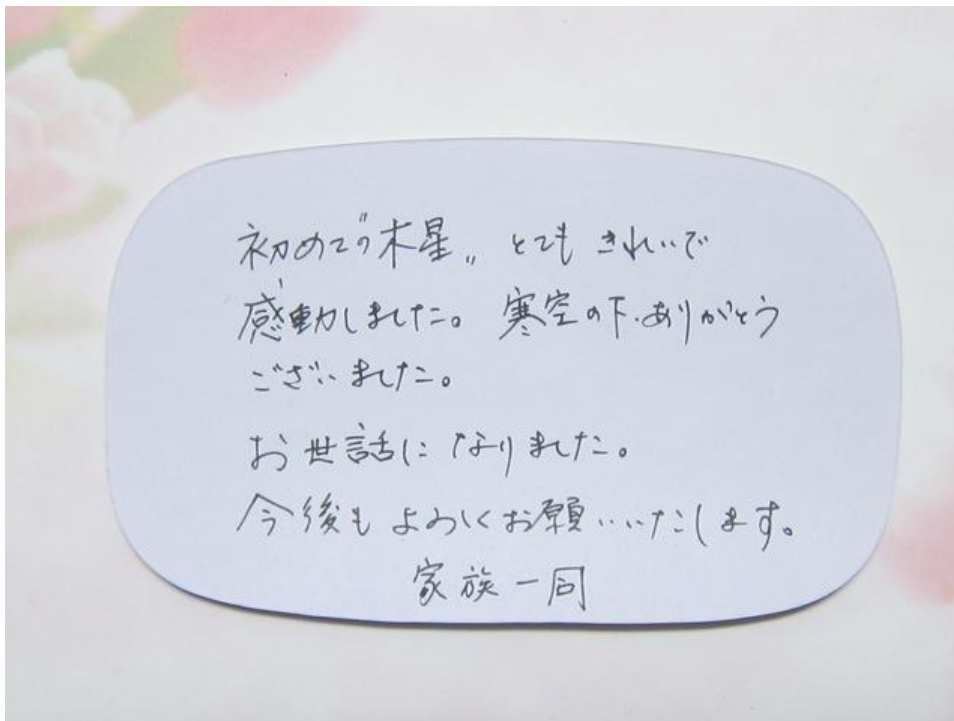


写真6 観望会から数ヶ月後に退院した男の子の母親からのメッセージ・カード  
「初めての「木星」とてもきれいで感動しました。寒空の下ありがとうございました。」



写真7 金環食の観望会の様子

6 記録を詳しくみよう！  
**金環日食 観察ノート**

太陽の欠け始めから一定時間ごとに変化を記録しましょう。太陽が金環にかがやくときを中心にその前後を10分間隔にさむくらいがいいでしょう。下の円を太陽に見たて、ペットボトルのキャップをつえに置き、太陽の欠けている部分の大きさをエンピツで線を書き入れます。観望中は線書きだけにして、あとでその部分を黒く塗りましょう。

欠けた太陽をよく見ず  
 円にキャップを置いて欠けた部分の線を書く  
 その時の時刻を必ず記録！  
 黒いペンで塗りつぶして完成！

17時18分	17時20分	17時25分	17時30分
17時31分	17時32分	17時33分	17時35分
17時37分	17時38分	17時40分	17時41分
17時42分	17時44分	17時46分	17時48分

写真8 金環食の観望会で子ども達が記した観察記録



写真9 大きな骨格標本の絵が貼られた院内学級の入り口の様子



写真10 アライグマのアゴのホネに子ども達が指を入れているところ





写真 11 川に落ちた森の木の葉の封入標本を子ども達に示す三橋さん